
遊戯王アイドルマスターGX

キラー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王アイドルマスターGX

【Nコード】

N7100X

【作者名】

キラー

【あらすじ】

未来からやってきたデュエリスト、パラドックスに勝利して3ヶ月……遊城十代はシンクロモンスターが流通し始めた世の中を旅していた。そんな中、十代の精霊であるネオスから以前倒した敵、『破滅の光』が再び動き出したことを知る。

『破滅の光』の目標は十代の世界とは別の平行世界。十代は相棒であるユベルとともにネオスの力で平行世界に行く。その平行世界で十代は13人のアイドルたちと出逢い……

デュエルはOCGRルールで進めていきますが、初期ライフが4000だったり表側守備で通常召喚もします。作者のもう1つの作品である「遊戯王GX ブレイヴ使いの転生者」に登場するオリカも登場する予定です。

ラスボスはGXで結局解決していない破滅の光事件の黒幕、破滅の光の意志です。たぶん憑依したキャラの中の人的にあの人に憑りつくかも。

注意事項（前書き）

このページは注意書きです。

注意事項

・この小説は遊戯王GXとアイドルマスターシリーズのクロスオーバーです。

・時系列は劇場版から3カ月後という設定にしています。あとオリ設定でそのころからGXの時代ではシンクロモンスターが登場した、というのがあります。

・ファラオと大徳寺先生は登場しません。ファラオは翔に預けて、大徳寺先生はあるきっかけで成仏したということになっています。ハネクリボーは……どうだろう？

・ルールは基本的にOCGのルールを採用していますが、初期ライフポイント4000で、表側守備表示で通常召喚もします。

・この小説はニコニコ動画に投稿されているアイマス×遊戯王(いわゆるユギマス)の動画や呉羽さん作の「遊戯王マスター アイダ達の絆の繋がり」を参考にしているので似ている設定・展開があると思います。

・作者はアイマスの知識があまりありません。ユギマス・ノベマスやプレイ動画、アニメを見て知識を得ています。ゲームはPSPのゲームを数回やったきりです。

・デュエルではアニメ効果のカード、作者のもう1つの作品である「遊戯王GX ブレイヴ使いの転生者」で登場するバトルスピリッツのカード(未登場のカードも含む)やアニメ・漫画で登場したオリカが出ます。あと完璧オリジナルのカードも出します。

・レアリティは現実基準で、スターダスト・ドラゴンやレッド・デーモンズ・ドラゴン、宝玉獣シリーズなど、世界に1枚だけのカードは流通されていません。ですが、E・HEROネオスとその関連のカード、超融合、E・HERO関連のカードは十代だけが所持、という設定にしています。序盤までで生産されているカードは「EXTREME VICTORY」のカードまでとなっています。ちなみにスターターデッキ2011のカードも流通しています。

・エクシーズモンスターは序盤は出ませんが、後々出す予定です。

・ユベルの性別は女。コレ絶対。なので1人称や性格が変化していません。

・響と貴音は最初から765プロ。

以上のことが嫌な人はご注意ください。

受け入れてくれる心の広い読者さんはプロローグ、もといTURN・1をどうぞ。

あと、わかりづらい説明でごめんなさい。

TURN・1…十代、平行世界へ(前書き)

ああ、やってしまった……。「ブレイヴ使いの転生者」もあるのに……
…「ブレイヴ使いの転生者」は近日に更新予定です。

あと、今回はデュエルしません。

「よーっし、これでデッキ調整完了っつと！ ユベル、デュエルの相手してくれよ」

東京都の某所にあるホテル、デュエルアカデミア本校のオシリス・レッド寮の制服を着た青年、遊城十代が組みなおしたデッキを試そうと、デュエルを持ちかけている。

十代が話しかけているのはユベルという悪魔のような容姿のデュエルモンスターの精霊。十代がデュエルアカデミア在学中に大きな事件を起こして、異世界で十代と融合した存在だ。今は十代の精霊としてサポートをしている。

で、デュエルを持ちかけられているユベルの反応は、

『十代、私はデュエルよりも食事をしたほうがいいと思うわ。そろそろお昼よ？』

「それもそうだな……。とりあえずカード買いに行きたいし、ホテルの外で食べるか。どうせもう出てくしな」

ユベルの言っていることももつともだ、と思った十代は組みなおしたデッキをバッグに入れて、それから取り出した最新型のノートパソコンでこの近くにあるファミレスなどを探す。

実は十代、ここらへんの地理は全くわからないのだ。

とりあえず、十代は近くにある有名なラーメン専門店に行くことを決めてノートパソコンを仕舞う。

バッグを背負い、部屋を出て行くこととする十代。が、十代はドアノブを握る前に何者かの気配がしたためあわてて振り返る。ユベルも気づいているようで、気配がする方を睨んでいる。

「何者だ!？」

「……驚かないでくれ。私だ」

ユベルと融合したお陰でオレンジと水色のオッドアイとなつている十代に話しかけてきたのは、白主体の身体に頭と胸にクリスタルを持つ某光の巨人似の容姿の十代の切り札的存在であるカード、《エレメンタルヒーロー E・HEROネオス》の精霊だった。

もう何ヶ月も姿を現していなかったので、十代もユベルも驚きながらネオスが現れた理由を尋ねる。

「ネオス、どうして突然現れたのかしら？ 理由を聞かせてもらえる？」

「俺もユベルに同意権だ。教えてくれ、ネオス」

「……わかった」

ネオスはうなずくと、突然現れた理由を話し始める。

「率直に言うと ヤツが、「破滅の光」が再び動き出したんだ」

「なっ……!？」

「『破滅の光』が!？」

話は変わるが、十代はデュエルアカデミアに在学中、4度の事件を解決してきた。

1つはデュエルアカデミアの理事長、影丸が起こした3幻魔事件。

1つは世界を滅ぼす『破滅の光』の意志に操られた斎王琢磨が起こした光の結社事件。

1つは当時、『破滅の光』に操られていたユベルが起こし、十代も加害者となつた異次元世界事件。

1つはデュエルディスクにカードが読み込めないことから始まり、

行方不明となっていた青年、藤原優介と彼を洗脳していた『ダークネス』と呼ばれる存在が起こしたダークネス事件。

ネオスが言っている『破滅の光』とだけは決着がついていなかった。いつか行動を起こすとは予想していたが、今行動するとは十代は思ってもみなかった。

……このまま『破滅の光』を野放しにしていると世界が混乱するかもしれない。そう危惧した十代はユベルにアイコンタクトで会話すると、半透明になっているネオスに向き合って話をする。

「ネオス、詳しい話を聞かせてくれ」

『わかった。……ここ数年で力を蓄えていた『破滅の光』は平行世界^{ワールド}に介入して、その世界で世界を消滅させるつもりらしい。この世界に目をつけなかった理由は十代、きみがいるからだ』

『十代がいる……「破滅の光」の天敵である霸王がいるからのようね』

「そうみたいだな……。ネオス、俺たちはどう動けばいい？」

十代がそう聞くと、ネオスは少し考えをするような素振りを見せてから、ネオスの考えを十代とユベルに伝える。

『2人にはパラレルワールドに行って「破滅の光」を倒してもらいたい』

「おう、まかせろ！……とは言ってみたものの、平行世界ってどうやったら行けるんだよユベル!？」

『十代、私に聞かれても困るわよ……でも、ネオスの力なら何とかなるんじゃない?』

「どうということだ?」

『ネオスペースの力を使って十代と私をその平行世界に飛ばす、ってことよ』

なるほどな、と十代は納得する。ネオスもうなずいてユベルの提案に賛成する。

『それでは、十代、ユベル、頼んだ。私は『破滅の光』の様子を探らなければいけないから平行世界には行けないかもしれない』

「まかせろよ。お前も頼んだぜ、ユベル」

『わかってるわ、愛しの十代のためだもの。私も十代のサポートをさせてもらっわ』

『2人とも、ありがとう。……それでは送るぞ』

「おう」

瞬間、ネオスから虹色のオーラ……ネオスペースの波動らしきものが部屋中に流れる。

（それにしても、ネオスってスゲエよな。前に『破滅の光』と戦ったときは剣山を宇宙まで連れてった、みたいなこと言ってたしな。それに平行世界を移動できるなんて……とてもワクワクすることじゃねえか！！）

十代はお気楽なことを考えているが、その決意はホンモノだ。そのためにも『破滅の光』を倒したい。それに、異世界で霸王の人格が消滅して以降1度も使っていなかった悪魔の英雄たちを使うきっかけになるかもしれない。

そして、虹色の光が十代と半透明のユベル、十代の荷物を包み込み、発光する。これが平行世界へ行く合図だろう。十代はそう思った。

光が部屋を支配する。

2人の意識が朦朧して、消えていく。

その中で十代は、ネオスの呟きを聞いた。

『十代、ユベル……世界を救ってくれ』、と。

『……！……代、十代……！十代……！』

ユベルの声を聞いて、十代はハッ！と目を覚ました。

十代はホテルの1室にいたはずだったのに、今は市民公園らしき場所のど真ん中ではないか。どうやら平行世界に到着したのだらう。

「ユベル、大丈夫か？」

『ええ、特に問題はないわ。……ここが平行世界みたいだけど、やっぱり元の世界とは変わらないわね』

「そりゃあな。似て異なる世界って言うし。そうだ、上に飛んでもらってもいいか？ 地理がわからないとどうにもならないし……と
りあえず、ネットカフェあたりか安そうなホテルで頼むよ」

『了解よ。早めに終わらせるわね』

「ああ。頼んだぜ」

会話が終わり、ユベルは背中の中の双翼で街のほうに羽ばたく。

その間に十代は近くに落ちていた荷物を確認しようと、バッグを手に取る。バッグの中にはノートパソコンとその充電器、デッキ、あまりのカード、残り少ない量のお茶が入っているペットボトル、デュエルアカデミアで支給されていたオシリス・レッド専用のデュエルディスク……十代がいた頃はオシリス・レッドの生徒は十代1人だけなので実質十代専用だが。あとは昨日買ったカードパック3

袋にその他。

とりあえず十代はペットボトルのお茶を飲み干して近くのゴミ箱に空のペットボトルを放り捨ててデッキやあまりのカードを確認する。十代だけが所有する《E・HEROネオス》やNネオスベーションやその関連カード、E・HEROが無くなっていないか確認するためだ。

適当に見ていったが、無くなっているカードはなかった。だが、少し気になっていることがあった。1枚しかないはずのネオスとその関連カードが3枚に増えているのだ。

E・HEROと関連カードは元々3枚あったのだが、ネオスや他のカードが3枚に増えているのは不可解だ。

どういうことか、と可能性を考えようと思ったときに、ユベルが戻ってきた。

「ユベル、どうだった？」

「ホテルは近くなかったけど、安料金のネットカフェはあったわ。その通りを左に曲がってすぐだから、案内するわ」

「おう。ありがとな」

ユベルに感謝しながら十代は荷物を背負おうとする。すると、1枚のメモ用紙が草むらに落ちていった。

十代はそれを拾うと、メモに書いてある文字を見ていく。

メモにはく十代へ、コンタクト融合デッキを作るならカードも増やしたほうがいいと思って、私やその関連カードを3枚に増やしておいた。有効に使ってくれ。ネオスより>と書かれていた。

『何て書いてあるの？』

「ネオスがカードを増やしてくれたんだってさ」

『へえ、粋なことやるのね』

ユベルが優しそうな笑みを浮かべながらそう言う。

「そんじゃ行くか」

『そうね。場所はこつちよ』

半透明の身体で行動しているユベルを追いかけて十代は草むらを歩いていく。

すると、ボカツ！！と木に拳を思い切り打ち付けるような聞こえた。気になったので十代は聞こえた方向にチラリと眼を向ける。見えたのは、不良らしき3人の少年に絡まれている2人の少女。十代がそれを見ているのに気がついたのが、ユベルも反応して、

『十代、あの2人を助けるの？』

「まあな。困ってる人がいたら助けるだろ、普通。それに不良の1人はデュエルディスクをつけている。たぶんデュエルで退いてもらえるだろ」

『……それで退いてもらえるんだったらデュエル万能説のでき上がりね』

ユベルは呆れながら姿を消す。

で、十代は赤いラインの専用デュエルディスクをつけてデッキをセツトすると、不良たちに近づいていき、

「おい、何やってるんだお前ら」

「何だデメエ。邪魔してんじゃねえよコラ！！」

「女の子が危ない状況に遭ってるんだ。助けるのは当然だろ？」

……言っていることがちょっとアレ(?)だが、十代が2人の少女を助けたいと思っているのには変わりない。

ちなみに2人の少女の容姿は、1人が黒髪ポニーテールで、もうもう1人が左右にピンク色のリボンをつけているショートヘアの少

女だ。

で、とりあえずお互いあーだこーだ言っていることになり、

「埒あかねえな……ならさ、デュエルで勝負しようぜ俺が勝ったら2人から離れる。俺が負けたら……俺のデッキとあまりのカード全て渡す」

「へっ、威勢がいいじゃねえか！ やっちゃってください横峯さん！」

「ちよっ……！ あんた誰だか知らないけど自分らのために全部のカード賭けるなんて……！」

「そうですよ！ もし負けたら！」

「大丈夫だいじょーぶ！ 絶対勝つって。信じてくれよ」

「そんじゃあ始めようぜ。一応名前を聞いておこうか。俺は横峯だ」

「俺は遊城十代だ！ 全力で行くぜ！」

互いのデュエルディスクが展開してソリッド・ヴィジョンシステムが起動する。

「デュエル……！」

TURN・1…十代、平行世界へ（後書き）

というわけですので、次回は序盤からデュエルです。

で、最後らへんに出てきた2人の少女……わかる人ならわかると思います、たぶん。なにせ口調がちよつと曖昧なんですよね……。

感想・誤字脱字の報告待ってます！

TURN・2…最強のプラネットVS正しき闇のHERO(前書き)

ようやく最新話更新です。遅れてすいません。

遅れた理由ですが、学校が忙しかったのと一昨日学校で音楽祭をやったので執筆する時間があまりありませんでした。

あ、そうそう。最後のほうですが、ちょっと他のユギマス動画の展開と似ているかもしれません。

それにしても響の口調が曖昧だ……

TURN・2…最強のプラネットVS正しき闇のHERO

十代と横峯、互いのデュエルディスクが起動、展開する。
後は開始宣言をするのみ……。

「デュエル!!」

開始宣言とともに2人はデッキトップからカードを5枚ドロースる。

十代は手札を確認しながら再びデッキトップに指を置く。

「俺のターン、ドロース！ まずはこいつだ。《E・HEROバブルマン》を守備表示で召喚するぜ！ さらにバブルマンの効果、このカードが召喚に成功したとき自分フィールド上に他のカードが存在しない場合、俺はカードを2枚ドロースる！」

《E・HEROバブルマン》（アニメ効果）

効果モンスター

星4 / 水属性 / 戦士族 / 攻800 / 守1200

手札がこのカード1枚だけの場合、このカードを手札から特殊召喚することができる。

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功したときに自分フィールド上に他のカードが無い場合、デッキからカードを2枚ドロースることができる。

現れたのは右腕に固定式の銃をつけた水の戦士。召喚時の効果で十代にドロースせる。

バブルマンの効果でデッキからカードを2枚ドロースした十代は、

手札をざつと見てから、1枚のカードを手取る。

「カードを1枚伏せてターンエンドだ」

「俺のターン。《ヘルウェイ・パトロール》を攻撃表示で召喚する」

横峯がデュエルディスクにカードを読み込むと、警察の白バイに乗る悪魔が彼のフィールドに召喚される。

《ヘルウェイ・パトロール》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1600 / 守1200

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送ったとき、破壊したモンスターのレベル×100ポイントダメージを相手ライフに与える。

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外することで、手札から攻撃力200以下の悪魔族モンスター1体を特殊召喚する。

「バトル！ 《ヘルウェイ・パトロール》でバブルマンに攻撃する

！ ヘル・チエイス！」

「くっ……通すぜ」

「さらに《ヘルウェイ・パトロール》がモンスターを破壊したとき、破壊したモンスター×100ポイントのダメージを相手ライフに与える」

バブルマンを破壊した《ヘルウェイ・パトロール》の効果により十代のライフポイントが4000から3600へダウンする。

だが、バブルマンを破壊したことで、十代の伏せカード発動のトリガーを引いた。

「バブルマンが破壊されたことで罫^{トランプ}《ヒーロー・シグナル》を発

動！ デッキからレベル4以下のE・HERO……《E・HERO
フェザーマン》を守備表示で特殊召喚するぜ」

《ヒーロー・シグナル》

通常罫

自分フィールド上のモンスターが戦闘によって破壊され墓地へ送られたときに発動することができる。

自分の手札またはデッキから「E・HERO」と名のついたレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚する。

《E・HEROフェザーマン》

通常モンスター

星3 / 風属性 / 戦士族 / 攻1000 / 守1000

風を操り空を舞う翼を持ったE・HERO。天空からの一撃、フェザースブレイクで悪を裁く。

「ふん、そんなザコを壁にしたって意味無いぞ」

「そうかな？」

「……俺はカードを1枚伏せてターンを終了する」

「俺のターン、ドロー！ 俺は手札から魔法カード、《融合》を発動！ フェザーマンと手札の《E・HEROネクロダークマン》を融合する。現れる、深淵の闇に潜みし英雄！ 《E・HEROエスクリダオ》を融合召喚だ！！」

「なっ……！！？ 属性HEROを持っていたのか！？」

《融合》

通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

《E・HEROネクロダークマン》
効果モンスター

星5 / 闇属性 / 戦士族 / 攻1600 / 守1800

このカードが墓地に存在する限り1度だけ、自分はレベル5以上の「E・HERO」と名のついたモンスター1体をリリース無しで召喚することができる。

《E・HEROエスクリダオ》

融合・効果モンスター

星8 / 闇属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守2000

「E・HERO」と名のついたモンスター+闇属性モンスター

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在する「E・HERO」と名のついたモンスターの数×100ポイントアップする。

「エスクリダオの効果発動！ こいつは墓地のE・HERO1体につき100ポイント攻撃力を上昇させる。俺の墓地のE・HEROはバブルマン、フェザーマン、ネクロダークマンの3体。よって300ポイントアップ！ ダーク・コンセントレイション！」

「攻撃力は……2800!？」

「これなら勝てる。頑張ってください！」

《E・HEROエスクリダオ》 攻2500 攻2800

エスクリダオから漆黒のオーラが発せられて、攻撃力が上昇する。……リバーズカードが気になるところだが、戦わなくては勝利を得られない。そう思った十代はリバーズカードを警戒し、攻撃宣言をする。

「行け、エスクリダオ！ 《ヘルウェイ・パトロール》に攻撃！
Dark ディフュージョン Diffusion！！」
「チツ……………」

《E・HEROエスクリダオ》が右腕のクローを飛ばし、《ヘルウェイ・パトロール》の白バイ共々激しく傷つけて破壊する。さらに超過ダメージにより横峯の残りライフは4000から2800へと大幅にダウンする。

バトルフェイズを終了させてメインフェイズへと移行した十代は手札を1枚取り出してデュエルディスク魔法・罨ゾーンのスロットにセットしてターンエンドを宣言する。

「横峯、だっけ？ お前のターンだぜ」

「くつ…………」。俺のターン、ドロー。手札から《おろかな埋葬》を発動する。デッキから2体目の《ヘルウェイ・パトロール》を墓地へ送る」

《おろかな埋葬》

通常魔法

自分のデッキからモンスター1体を選択して墓地へ送る。

横峯は《おろかな埋葬》を使って墓地肥やしとデッキ圧縮を同時に行い、デッキの《ヘルウェイ・パトロール》を墓地に送った。

墓地へ送った《ヘルウェイ・パトロール》はこのカードを除外して手札の攻撃力2000以下の悪魔族モンスターを特殊召喚することができない。悪魔族を中心としたデッキでは大いに活躍するだろう。十代は墓地に送られた《ヘルウェイ・パトロール》を見て、

（マズいな………… 《ヘルウェイ・パトロール》の効果で手札からモンスターを特殊召喚されたら一気に上級モンスターを召喚されたりシ

ンクロモンスターの布石にされる……！)

だが、まだ4ターン目だよな、と少し安心しきってつばを飲む。

「さらに俺はモンスターを裏守備表示でセット、リバーズカードを1枚伏せてターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー！ 《カードガンナー》を召喚！」

十代のターン、彼が召喚したのは赤を中心とした色をした小型の移動砲台《カードガンナー》。腕には2門のキャノン砲がついている。

《カードガンナー》

効果モンスター

星3 / 地属性 / 機械族 / 攻400 / 守400

1ターンに1度、自分のデッキの上からカードを3枚まで墓地へ送って発動する。このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、墓地へ送ったカードの枚数×500ポイントアップする。

また、自分フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られたとき、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「続けて《カードガンナー》の効果発動！ デッキトップからカードを3枚墓地へ送って《カードガンナー》の攻撃力を1500ポイントアップさせる！」

《カードガンナー》 攻400 攻1900

効果によって十代のデッキから墓地に送られたカードは《ネクロ・ガードナー》、《E・HEROクレイマン》、《ヒーロー・ブラスト》の3枚だ。

相手モンスターを破壊する《ヒーロー・ブラスト》が落ちたのは残念だが、墓地から除外することで相手モンスターの攻撃を無効にすることができる《ネクロ・ガードナー》が墓地に送られたのはラッキーだ。

「行け、エスクリダオで裏守備モンスターを攻撃！ Dark Diffusion！」

「くそっ……だが破壊された裏守備モンスターは《クリッター》だ！ 《クリッター》がフィールドから墓地に行ったとき、デッキから攻撃力1500以下のモンスターをサーチする。俺はデッキからチューナーモンスター、《ダーク・スプロケッター》を手札に加える！」

「だが、《カードガンナー》の攻撃が残ってるぜ！ 《カードガンナー》、プレイヤーへダイレクトアタック！」

「畏発動、《ガード・ブロック》！ この戦闘でのダメージを0にしてデッキからカードを1枚ドローさせてもらう」

《ガード・ブロック》

通常罠

相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動することができる。

その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

《カードガンナー》の攻撃が見えない壁に遮られ、横峯へのダメージが0となり、1ドローを許してしまう。

「……なら俺は、カードを1枚伏せてターンエンド」

「俺のターン、ドローだ。《BF - 精鋭のゼピュロス》ブラックフェザーを召喚する」

《BF - 精鋭のゼピュロス》

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻1600 / 守1000

このカードが墓地に存在する場合、自分フィールド上に表側表示で存在するカード1枚を手札に戻して発動する。このカードを墓地から特殊召喚し、自分は400ポイントダメージを受ける。

「BF - 精鋭のゼピュロス」の効果はデュエル中に1度しか使用できない。

「バトルフェイズへ移行し、ゼピュロスで《カードガンナー》に攻撃する！」

「通すぜ。そして破壊された《カードガンナー》の効果発動だ！このカードが破壊され墓地へ送られたとき、デッキからカードを1枚ドローできる。よって1ドローさせてもらっぜ」

「……勝手にしろ」

1枚カードがドローできたとはいえ、《カードガンナー》が《BF - 精鋭のゼピュロス》に戦闘破壊されたことで十代のライフは3600から2200にダウンする。

「カードを1枚伏せてターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー！ エスクリダオ、行け！ 精鋭のゼピュロスに攻撃だ！」

「畏発動！ 《次元幽閉》！ エスクリダオは除外させてもらっぞ！」

「何ッ!?!」

《次元幽閉》

通常罫

相手モンスターの攻撃宣言時に発動することができる。その攻撃モンスター1体をゲームから除外する。

「ならメインフェイズ2、手札から《沼地の魔神王》の効果を発動！ このカードを手札から墓地に捨てることでデッキから《融合》をサーチする！」

《沼地の魔神王》

効果モンスター

星3 / 水属性 / 水族 / 攻500 / 守1100

このカードを融合素材モンスター1体の代わりにすることができる。その際、他の融合素材モンスターは正規のものでなければならぬ。また、このカードを手札から墓地へ捨てることで、デッキから「融合」魔法カード1枚を手札に加える。

十代は《沼地の魔神王》を手札から捨てることで融合をサーチして手札に加える。

とりあえず今はメインフェイズ2のため、もうバトルフェイズは行うことができないが、攻撃力が高い融合モンスターを召喚することはできる。

「手札から2枚目の《融合》を発動！ 手札の《E・HEROスパークマン》と《E・HEROエッジマン》を融合！ 現れる、《E・HEROプラズマヴァイスマン》！！」

《E・HEROプラズマヴァイスマン》

融合・効果モンスター

星8 / 地属性 / 戦士族 / 攻2600 / 守2300

「E・HEROスパークマン」+「E・HEROエッジマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃したとき、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与

える。

手札を1枚捨てることで相手フィールド上の表側表示モンスター1体を破壊する。

「俺はプラズマヴァイスマンの効果発動だ。手札を1枚捨てて《B F - 精鋭のゼピュロス》を破壊！」

「何！？ くっ……！」

「よし、カードを伏せてターンエンドだ」

「エンドフェイズ時、速攻魔法《終焉の焰》を発動！ 自分フィールド上に守備表示で黒焰トークンを2体特殊召喚するぜ！」

《終焉の焰》

速攻魔法

このカードを発動するターン、自分は召喚・反転召喚・特殊召喚することはできない。

自分フィールド上に「黒焰トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）2体を守備表示で特殊召喚する。

このトークンは闇属性モンスター以外のアドバンス召喚のためにはリリースできない。

《黒焰トークン》守0×2

速攻魔法、《終焉の焰》が発動したことにより、横峯のフィールド上に2体の黒焰トークンが特殊召喚される。おそらく壁だろう、と十代は予測した。

これで横峯のフィールドはトークン2体とリバーズカードのみ。これなら何とか勝利できるかもしれない。

そして横峯のターンが回ってくる。

「俺のターン、ドロー。魔法カード、《闇の誘惑》^{マジック}を発動する。デ

ツキからカードを2枚ドロした後に自分の手札から闇属性モンスターをゲームから除外する。俺は手札の《ダーク・スプロケッター》を除外だ」

「手札増強用のカードか……何か仕掛けてきそうだな」

《闇の誘惑》

通常魔法

自分のデッキからカードを2枚ドロし、その後手札の闇属性モンスター1体を選択してゲームから除外する。

手札に闇属性モンスターがない場合、手札を全て墓地へ送る。

横峯は2ドロしたあと、十代に《ダーク・スプロケッター》を公開してゲームから除外する。

そして、横峯は手札にある1枚のカードに手を掛ける。

「そして俺は、黒焰トークン2体をリリース！ 現れる俺の切り札、

《The ^サsupremacy ^{サン}SUN》を召喚！！」

「The SUNかよ!？」

《The supremacy SUN》

効果モンスター

星10/闇属性/悪魔族/攻3000/守3000

このカードはこのカードの効果でしか特殊召喚できない。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた場合、次のターンのスタンバイフェイズ時、手札を1枚捨てることで、このカードを墓地から特殊召喚する。

黒焰トークン2体がリリースされる。そして背中に太陽の光を思わせるような輝きを放つ6枚の翼を持ち、太陽を表した存在だとは思えないほど真つ黒な身体を有する太陽の悪魔、《The supremacy

remacy SUN》が現れる。

十代が驚いた理由だが、十代の世界ではThe SUNをはじめとする惑星を模したモンスターカード プラネット・シリーズのカードは世界に1枚ずつしかないカードだったため驚いたのだ。

ちなみに十代もプラネット・シリーズの1枚である地球を模した《E・HEROジ・アース》を持っている。パドックスとデュエルをする数週間前に行われた世界規模の大会で優勝し、その賞品としてもらったのだ。

プラネット・シリーズが出てきたのは、この平行世界だと量産されてるのだろうと十代は納得する。

……話が反れたようで。

The SUNは十代のフィールドにいるプラズマヴァイスマンよりも攻撃力が高い。よって戦況をひっくり返されるだろう。

それに……

(俺が負けたら2人が厄介な目に遭うし……見過ごすわけにはいかねえよな！ ま、それもあるけど、The SUNと戦えるなんてとてもワクワクすることじゃないか！！)

……一応、最後のが本音である。

「バトル！ The SUNで《E・HEROプラズマヴァイスマン》に攻撃する！ ソーラーSOLAR フレアFLARE！！」
「通すしかねえか……！！」

The SUNの攻撃により《E・HEROプラズマヴァイスマン》が破壊され、十代のライフが2200から1800にダウンする。

「メインフェイズ2、俺は手札から永続魔法《カードトレーダー》

を發動して、墓地にあるゼピュロスの効果を發動。《カードトレーダー》を手札に戻して墓地から蘇生する。そして再び《カードトレーダー》を發動だ」

《BF - 精鋭のゼピュロス》 攻1600

《カードトレーダー》

永続魔法

自分のスタンバイフェイズ時に手札を1枚デッキに戻すことで、自分のデッキからカードを1枚ドロウする。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロウ！ よし、《ダンディライオン》を守備表示で召喚するぜ」

十代がデュエルディスクにカードを読み込む。すると、タンポポを模したような身体のライオン。鬣たてがみは花弁はなびらとなっていて、前足は葉となっている。

《ダンディライオン》

効果モンスター

星3 / 地属性 / 植物族 / 攻300 / 守300

このカードが墓地へ送られたとき、自分フィールド上に「綿毛トークン」（植物族・風・星1・攻/守0）2体を守備表示で特殊召喚する。

このトークンは特殊召喚されたターン、アドバンス召喚のためにはリリースできない。

「さらに俺はカードを1枚伏せる。ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー。《カードトレーダー》の効果は使用しない。続けてバトルフェイズ、《The supremacy SUN》で《ダンディライオン》を攻撃。SOLAR FLARE!!」
「だが、《ダンディライオン》が墓地へ送られたことで守備表示で綿毛トークン2体を特殊召喚できる。こい、綿毛トークン！」

《ダンディライオン》が破壊されて十代のフィールドはがら空きになったが、《ダンディライオン》の効果でタンポポの綿毛を模した、綿毛トークン2体が現れる。

《綿毛トークン》守0×2

「壁が増えたか……だが、少しでも減らす！ 精銳のゼピュロスで綿毛トークンを破壊だ！」

「リバーズ罠、《フローラル・シールド》だ。相手モンスターの攻撃を無効にしてデッキからカードを1枚ドロウするぜ」

「くっ……止められたか」

《フローラル・シールド》（アニメ、タグゲフォースTFオリカ）

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動することができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、自分のデッキからカードを1枚ドロウする。

無数の花卉が《BF - 精銳のゼピュロス》の攻撃から綿毛トークン1体を守る。そして十代はデッキから1枚ドロウ。

「チッ……ターンエンドだ」

「よし、俺のターン、ドロー！ ……横峯だったっけ？ このデュエル、俺の勝ちだ！」

「はっ、無理に決まってる。俺のフィールドにはゼピュロスと The SUNがいる。だがお前のフィールドは2体の綿毛トークンのみ。そんなお前がどう俺に勝つんだ？」

「まあ見てな。俺は手札から魔法カードマジック、《ホープ・オブ・フィフス》を発動！ 墓地のE・HEROと名のついたカード5枚をデッキに戻してシャッフルした後、俺はデッキからカードを2枚ドロースする！」

「またドローカード!? 一体お前、どんな強運の持ち主なんだ!?」

「さアね。俺は《E・HEROバブルマン》、《E・HEROフェザーマン》、《E・HEROエスクリダオ》、《E・HEROプラズマヴァイスマン》、《E・HEROスパークマン》をデッキに戻して2枚ドロースだ！」

《ホープ・オブ・フィフス》

通常魔法

自分の墓地に存在する「E・HERO」と名のついたカードを5枚選択し、デッキに加えてシャッフルする。その後、自分のデッキからカードを2枚ドロースする。

このカードの発動時に自分フィールド上および手札に他のカードが存在しない場合はカードを3枚ドロースする。

十代は《ホープ・オブ・フィフス》の効果で選んだE・HERO5枚をデッキに戻した後3回シャッフルして、デッキからカードを2枚ドロースする。

ドロースしたカードを確認して十代は笑う。勝利を確信した笑みだ。手札の真ん中にある1枚のカードを手にとって、十代は手札からそのカードを引き抜く。

「行くぜ！ 俺は2体の綿毛トークンをリリース。宇宙の正しき闇

の力を持ちしHERO、《E・HEROネオス》を召喚だ！」

「え、《E・HEROネオス》だと!？」

「そんなカード聞いたことないよ! 響ちゃんは知ってる?」

「じ、自分も知らない! それにしてもE・HEROのカテゴリなものに見たこと無いカード……」

《E・HEROネオス》

通常モンスター

星7 / 光属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守2000

ネオスペースからやってきた新たなE・HERO。ネオスペースアンとコンタクト融合することで、未知なる力を発揮する!

どうやらネオスはこの平行世界だと存在しないらしい、十代はそう認識した。

だが今はそんなことを気にしてる場合ではない。このデュエルに勝つこと、そしてこのデュエルを心から楽しむことを考える!

「さらに手札から装備魔法、《アサルト・アーマー》と《ネオス・フォース》を発動してネオスに装備!これでネオスの攻撃力は2500から3600に上昇するぜ!」

《アサルト・アーマー》

装備魔法

自分フィールド上に存在するモンスターが戦士族モンスター1体のみの場合、そのモンスターに装備することができる。

装備モンスターの攻撃力は300ポイントアップする。

装備されているこのカードを墓地へ送ることで、このターン装備モンスターは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃することができる。

《ネオス・フォース》

装備魔法

「E・HEROネオス」にのみ装備可能。

装備モンスターの攻撃力は800ポイントアップする。

装備モンスターが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送ったとき、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

エンドフェイズ時にこのカードをデッキに加えてシャッフルする。

《E・HEROネオス》 攻2500 攻3600

そして十代はネオスに装備されている《アサルト・アーマー》を墓地へ送る。これによりネオスは攻撃力が3300にダウンするが、バトルフェイズ中に2度攻撃できるようになった。

「行け、ネオス！ 《The supremacy SUN》に攻撃だ！ フォース・オブ・ネオスペース！！」

ネオスが光を纏った拳でThe SUNに攻撃する。そしてThe SUNが戦闘で破壊されて、横峯は超過分のダメージ、300をライフに受け、残りライフを2500までダウンさせられる。

横峯は一瞬だけ、終わりか……？ と思った。だが、まだデュエルは終わっていない。

「《ネオス・フォース》の効果発動！ 装備モンスターが戦闘で相手モンスターを破壊したとき、そのモンスターの攻撃力分のダメージを与える！ ネオスが破壊したモンスターは攻撃力3000《The supremacy SUN》！ よってお前に3000ポイントのダメージを与える！！」

「くそっ……俺の負けか……」

「ああ。でも楽しいデュエルだったぜ。ガッチャ！ またデュエル

しような!」

十代は右の中指と人差し指以外を握り、横峯に向かって右腕を向ける。

横峯はデュエルディスクとデッキを仕舞って、自分の舎弟と一緒にその場を離れる。……「次は勝つ」という言葉を残して。

素直じゃねえな、と十代は心の中で横峯に対する感想を言う。

『素直じゃないところは十代にもあるでしょ?』

「う、うるせーな」

『フフツ……でもそういう十代も私は好きよ』

突然出てきてすぐ消えたユベルに対して十代は苦笑いを浮かべる。

……まあでも、ユベルに好きと言われても嫌な感じはしない。むしろ嬉しい。前世で一緒だったからか、それとも……

そんなことを考えながらデュエルディスクをバッグに仕舞っていると、2人の少女が十代に走り寄ってくる。よく見ると、横峯たちから助けようとした2人だった。

「さつきはありがとうございます! 私、天海春香って言います!」

「自分は我那覇響! 助けてくれてありがとうございます、ええと……」

「俺は遊城十代。よろしくな、春香、響」

「よろしくお願いします十代さん。それで、助けてくれて本当にありがとう!」

「いいっていいって。……って、2人ともデュエルモンスターズをやるのか?」

十代は響のズボンからはみ出ている、デュエルモンスターズのカードを指差しながら言う。

「もちろん！ 自分たち、デュエルアイドルなんだ！」

「でも人気はあまり無いですけどね……」

「デュエルアイドル……？ 聞いたことねえな。それって何だ？」

「えっと、デュエルもするアイドルのことなんだ。結構知ってる人は多いんだけどな……」

「ははは……俺そついうの疎くて」

響の台詞に苦笑いしながら十代は思索する。

(デュエルアイドル、か。俺の世界では聞いたことないな。あ、前翔に俺がいないとき明日香がクロノス先生やナポレオン教頭にそんなことをやれって迫られてた、みたいなこと聞いたな)

今となつてはあまり興味ないことだな、と十代は思う。

それにしても、デュエルアイドルと言うのは十代の世界のプロリーグと同じくらい難易度が高く、春香と響の話を聞いていると、2人の所属している765プロダクションナムコはその中でも弱小で765プロの社長が優秀なプロデューサーを募集しているらしい。

大体のことを言い終えた2人は、

「それで、さつき春香と話してたんだけど、十代さんに765プロでプロデューサーをやってくれないかなって話してたんだ」

「もしよろしければ、1度社長に会ってくれませんか？ あ、もちろん断つてもらってもいいですよ！」

「うーん、じゃあ少し考えてもいいか？」

「はい。いいよね、響ちゃん？」

「うん。あまり急いで答えを出してもらわなくてもいいさー」

そう言われて十代は腕を組み、考えているふりをする。一応考えは纏まっているので、相棒であるユベルと話し合うつもりなのだ。

(……っていうわけなんだけどさ。俺、2人の助けになりたいんだよな。それに……)

『プロデューサーをやりながら「破滅の光」の情報を集めたい、ってトコかしら?』

(流石は俺の頼れる精霊だ。というわけで……ダメ?)

『いいわよ』

(だよな……ってマジ!?)

『私はその考えいいと思うわよ。十代らしいし。それに言ったでしよ? 愛しの十代のサポートをするって』

(……ありがとな)

『1度決めたんだから頑張りなさいよ』

以上、2分くらいで話し合いは終了した。……少しユベルらしくない言動かもしれないが。

とりあえず方針は決まった。あとは2人にプロデューサーになるということ伝えるだけだ。十代は握りっぱなしだったデッキをポケットに仕舞いながら、

「春香、響、社長さんに会わせてもらえるか?」

「……っていうことは……」

「ああ。765プロのプロデューサー、やらせてもらっせ」

この後、春香と響の喜びの声が上がったのは言うまでもないだろう。

TURN・2…最強のプラネットVS正しき闇のHERO（後書き）

すみません、今回デュエルで使った《ネクロ・ガードナー》および《E・HEROネクロダークマン》の効果を使うの忘れてました。マジですいません……。

とりあえず次回は登場人物紹介かもしれません。わからない人のために。

あと読者の皆さんに某動画サイトにアップされているユギマス動画を紹介してもらいたいです。はい。作者は先月末に遊星が主人公のユギマス動画を見たばかりなので。紹介してもらおう場合はメッセージからお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7100x/>

遊戯王アイドルマスターGX

2011年10月28日16時05分発行